

あけまして おめでとびゅうびゅうです

伊賀市長 岡本 栄

あけましておめでとびゅうびゅうです。
市民の皆さんには、笑顔で新しい年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

昨年11月に、ふるさと伊賀市の舵取り役を担わせていただくこととなり、1カ月余りが経過しました。振り返りますと、瞬く間のできごとでしたが、今までの市政を見直し、しがらみのない市民主体の市政ヘリセットすることをめざし、私たちのまちをもう一度建て直したいという市民の皆さんの思いを受けて、「医療の再生」「ムダのない財政」「観光・農林業の再生」を重要施策として取り組んでまいります。

具体的には、厳しい経営状況にある上野総合市民病院の公立病院としての使命は非常に大きいと考えますので、その再生に全力を挙げて取り組みます。

庁舎建設事業については、計画を白紙に戻し見直し、電子事務を進めるなど事務形態も根本的に見直し、改めて本庁、支所のあり方から検討を進め、さまざまな選択肢を提供しながら、市民の皆さんと共に庁舎の整備計画をまとめま

す。そして、これまでの政策については、聖域なくすべての分野において見直します。

さらには、伊賀市には芭蕉や忍者をはじめ数多くの観光資源がありますが、それが十分に生かされてはいません。「伊賀は観光で生きていく」といういわゆる「観光立市」を、市長自らがトップセールス*で発信していきます。

また、伊賀市の農産物は、伊賀米や伊賀牛、果樹、有機野菜など地域のブランドとして誇れるものが多数あります。生産基盤を磐石にすること、「伊賀産」という地名のブランド価値の向上、6次産業化による加工・販売などを通じて農産物に付加価値をつけ有利に販売を行うことなど、生産・販売両面の施策をバランスよく推進したいと思えます。

こうした事柄のほかにも、さまざまな課題が山積しています。伊賀市再生に向けた取り組みは、今まさにその緒についたところですが、依然として厳しい財政状況の中ですが、市民の皆さんから頂いた負託を重く受け止め、皆さんと一緒に、できることから再生に向けた取り組みに着手していきます。実現に向け一層のご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

* トップセールス…組織の首長が自ら売り込むこと

※市長などの公職にある者は、公職選挙法により年賀状などのあいさつ状を出すことが禁止されていますので、本紙上をもって年賀のごあいさつに代えさせていただきます。





「これまでどおり、
ではなく」

伊賀には、古いものを守っている町というイメージがあるかもしれないが、古い時代を考えるとそうではない。山国だが大阪からの船便が届く土地であったため、新しいものを受け入れる気風がある。例えば、松尾芭蕉。ありふれた庶民の楽しみであった発句を、独特な感性で芸術の域にまで高めた。能の世界でも同じ。伊賀の出身といわれる観阿弥がいる。伊賀焼も古伊賀と呼ばれる古い時代の焼き物は、ひょうげた形のものが出てくる。
※ひょうげる…ぶぶける、おどける

人と違うことをする

私は以前から人と同じことをするのがいやだった。前職はアナウンサーだったが、衣装や髪型は自分で決めていた。無難なのがいやで、人と違うことをしたくなる。これが伊賀の血だ。

活気あるまち

伊賀は可能性を秘めた土地だ。いろいろなイベントがあり、成功しているものもある。若い人がまちの中で芸術表現をしたり、俳句を使った催しをしたりなど、おもしろい地域づくりをすすめていける土壌がある。



岡本市長が語る

「アバンギャルドのDNA」

「新しいもの、これまでになかったものを追いかける気風」

固定観念は捨てる

何かをしたいという思いがあつて、それが誰もしていないことでも、「こんなしたらあかんやろ」と思うのではなく、これまでの枠を取り払って、自分の方法でやってみたらいい。枠を取り払うことで、町は元気になる。元気な町には、若い人が帰ってくる。

伊賀



先人の声が聞こえる

ずっと上野の町で暮らしてきて、昔の人たちの思いがあつたから、町が残つてきたのだと感じる。先人の思いを大切にしたい。



よさを知る

高校生のころは狭いまちに住んでいるのがいやで、学生時代は東京へ行った。外へ出て初めて、それまであたりまえだと思つていたことがあたりまえではない、大切にしなければいけないことだと気づいた。



地域のことば

子どものころ、家の垣根で虫をとっていたら、白髪のおじいさんが近づいてきて、何をとっているのかと聞いた。方言を使わない方がいいかと思い、「カミキリモドキです」と答えた。すると、その人は「わしらはオブンカンゴと言つたがなあ」とつぶやいた。あとから聞くと、それは初代の上野市長だったそつだ。地域の呼び方を避けてしまったことが、幼いながらも悔やまれて、今もそのときの情景をよく覚えてる。



ジャズが聴ける庁舎

5時15分の閉庁時間にジャズを流している。職員に向けてお疲れ様という気持ちで伝えるのと同時に、自由な発想でリラクソスしてこのつというメッセージでもある。

【問い合わせ】

秘書広報課

☎

22・9600

FAX 24・7900